

プロスポーツの 経済・社会効果とまちづくり

調査結果【概要版】

2024年12月

公益財団法人ひまわりベンチャー育成基金
調査研究部門 千葉経済センター

(調査受託)株式会社ちばぎん総合研究所

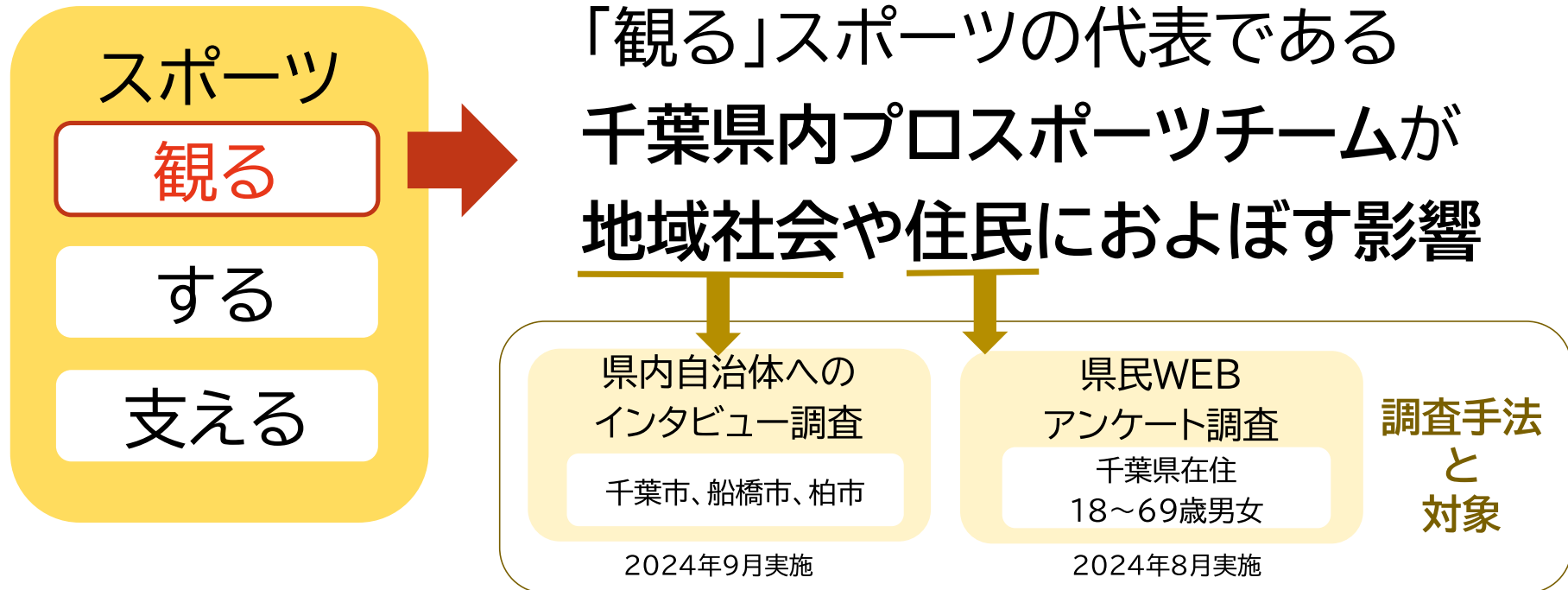


(出所)千葉ロッテマリーンズ公式ホームページ

はじめに

近年、人を結びつけるスポーツの力を活用して、まちづくりや地域課題の解決を図る取組に注目が集まっている。

本調査で明らかになったこと



プロスポーツチームの地域社会への影響

千葉県内プロスポーツチームの本拠地である
3市(千葉市・船橋市・柏市)にインタビューを実施した。

自治体とプロスポーツチーム との連携事例

- プロスポーツ選手の学校訪問(千葉市)
- 市内転入者のホームゲームへの無料招待
(船橋市)
- 保育園児の遊び場としてホームスタジアム
を解放(柏市) など

いずれの取組も
自治体がサポート・調整機能を担うことで実現

結果

プロスポーツチームとの連携は 「より良いまちづくり」 に繋がっている

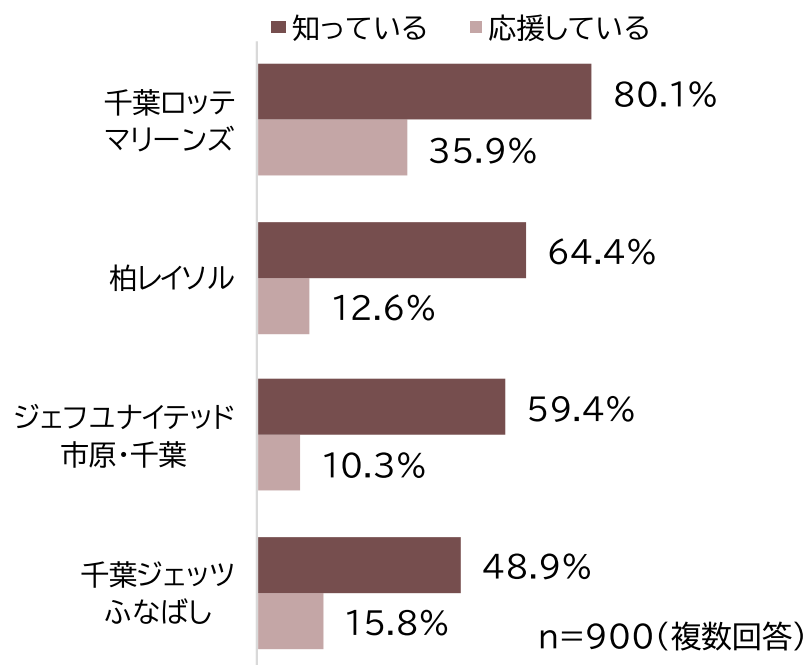
<取組による効果(自治体職員より)>

- 子どもがスポーツの楽しさを実感した
- 「観る」、「する」スポーツの実施率が高まった
- 市民の地域への愛着や誇りが高まった
- 地域の一体感やソーシャルキャピタル
が形成された

県内プロスポーツチームの認知・応援状況

- 認知・応援状況ともに、千葉ロッテマリーンズ、柏レイソル、ジェフユナイテッド市原・千葉、千葉ジェッツ船橋が上位である。
- チームの本拠地がある自治体居住者ほど応援度合いが高く、各プロスポーツチームが地元住民と密接な関係にある。また、Jリーグは、地域密着性がより高い。

県内プロスポーツチームの認知・応援状況(複数回答)



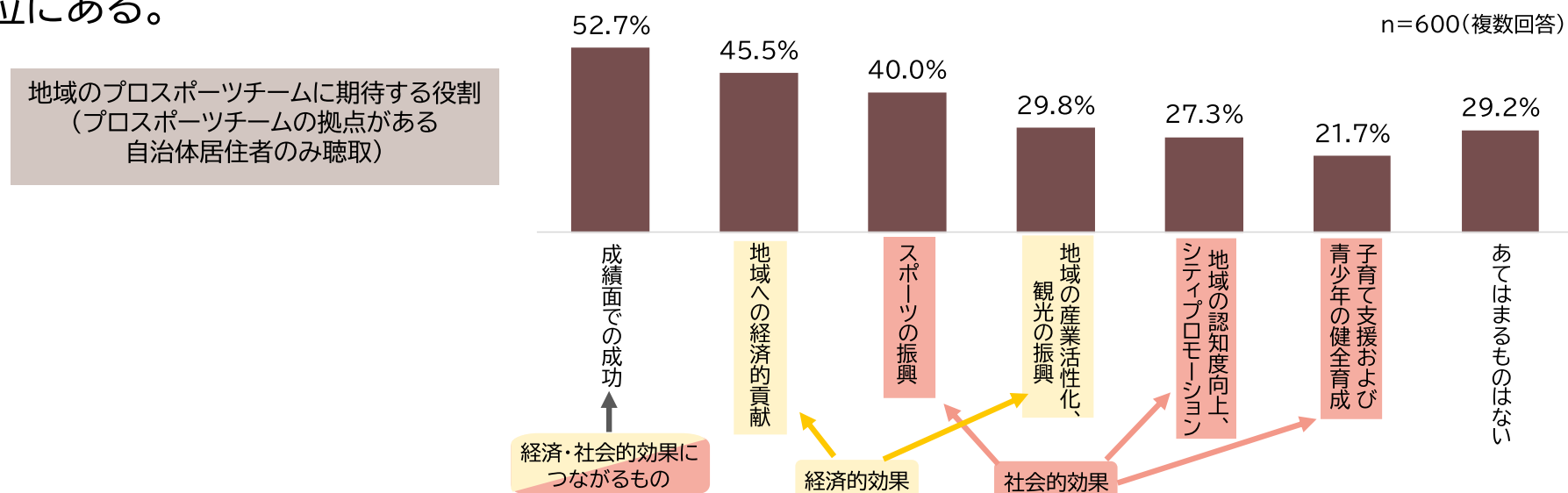
県内プロスポーツチームの認知・応援状況(居住自治体別)

全体より5pt以上大きい項目は網掛け (複数回答)

	合計	千葉ロッテマリーンズ	千葉ジェッツふなばし	柏レイソル	ジェフユナイテッド市原・千葉
全体	749	35.9%	15.8%	12.6%	10.3%
千葉市	204	本拠地 46.1%	18.1%	6.4%	本拠地 17.2%
船橋市	122	45.9%	本拠地 29.5%	9.0%	13.9%
習志野市	38	50.0%	23.7%	7.9%	7.9%
柏市	85	34.1%	11.8%	本拠地 44.7%	4.7%
市原市	21	42.9%	19.0%	9.5%	本拠地 28.6%
我孫子市	18	16.7%	0.0%	27.8%	5.6%
浦安市	38	36.8%	21.1%	7.9%	13.2%
その他	223	20.2%	6.3%	8.5%	2.7%
ホームタウンと全体の差分		10.2pt	13.7pt	32.1pt	6.9/18.3pt

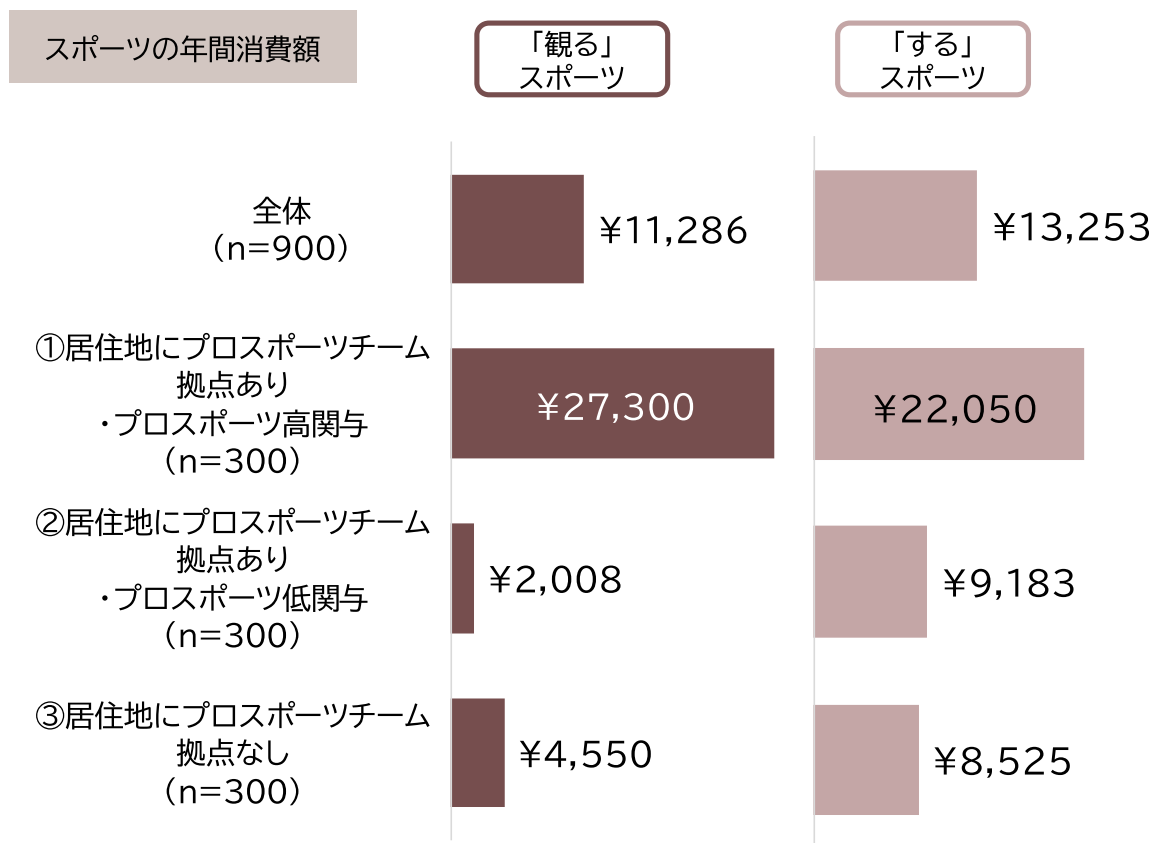
県民がプロスポーツチームに期待する役割

- 県内プロスポーツチームのホームタウン居住者は、プロスポーツチームに経済的・社会的効果のいずれも期待している。
- 地域のプロスポーツチームに期待することを聞くと、経済的・社会的効果につながる「成績面での成功」が52.7%と最も高い。次いで、経済的効果である「地域への経済的貢献」(45.5%)と「地域の産業活性化、観光の振興」(29.8%)が上位にある一方、社会的効果である「スポーツの振興」(40.0%)と「地域の認知度向上、シティプロモーション」(27.3%)、「子育て支援および青少年の健全育成」(21.7%)も上位にある。



スポーツの年間消費額

- 回答者の約半数が「観る」、「する」スポーツにお金をかけていない(年間消費額0円)と回答。一方、1万円以上消費している人も一定割合存在する。県民の間でスポーツへの関心度合は二極化している。

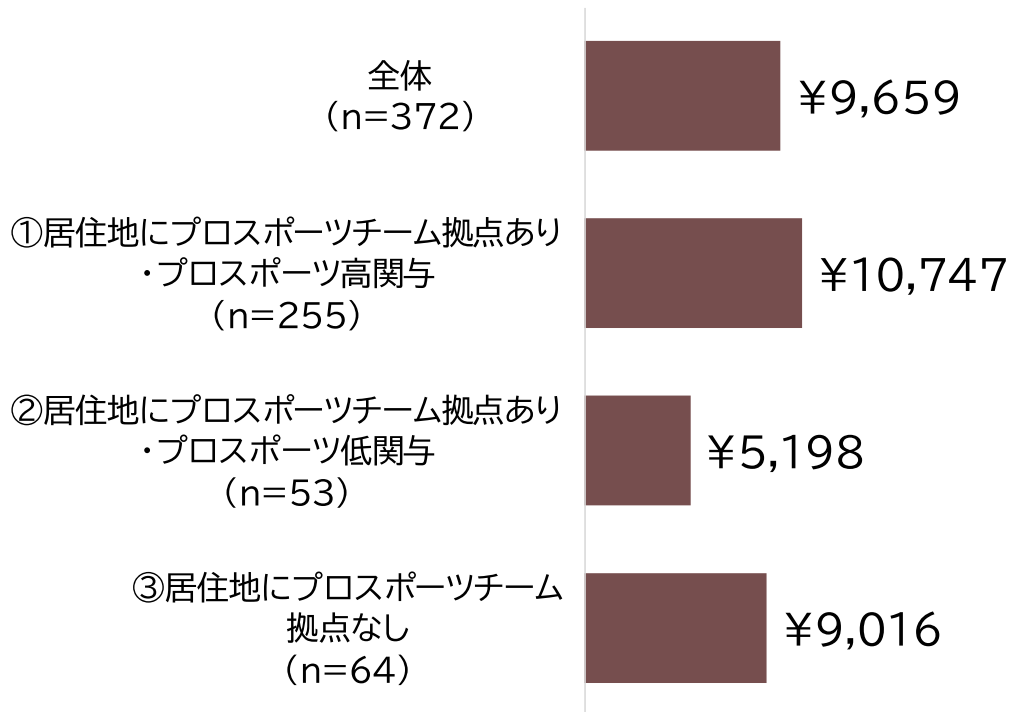


- 居住地にプロスポーツチームの拠点があり、プロスポーツへの関心が高い人は、「観る」、「する」スポーツどちらにも平均値で年間2万円以上支払っていた。
- 「観る」スポーツであるプロスポーツに関心がある人は、「する」スポーツの年間消費額も多い。「観る」、「する」スポーツの実践、消費は互いに影響し合っている可能性が高い。

応援している県内プロスポーツチームの存在価値

県民WEB
アンケート調査

応援しているプロスポーツチームの年間寄付金額(≒存在価値)
(応援しているチームがある人のみ聴取)



- 応援しているプロスポーツチームがある人は、そのチームの存続のために年間約1万円寄付しても良いとしている。
- ファンにとって、応援するプロスポーツチームの存在価値の大きさがうかがえる。

【補足】データの聴取方法

「応援しているプロスポーツチームが県内から撤退する」という仮想的状況を設定し、それを防ぐためにどの程度金銭的な寄付を行うかを質問し、得られた結果を使用している。

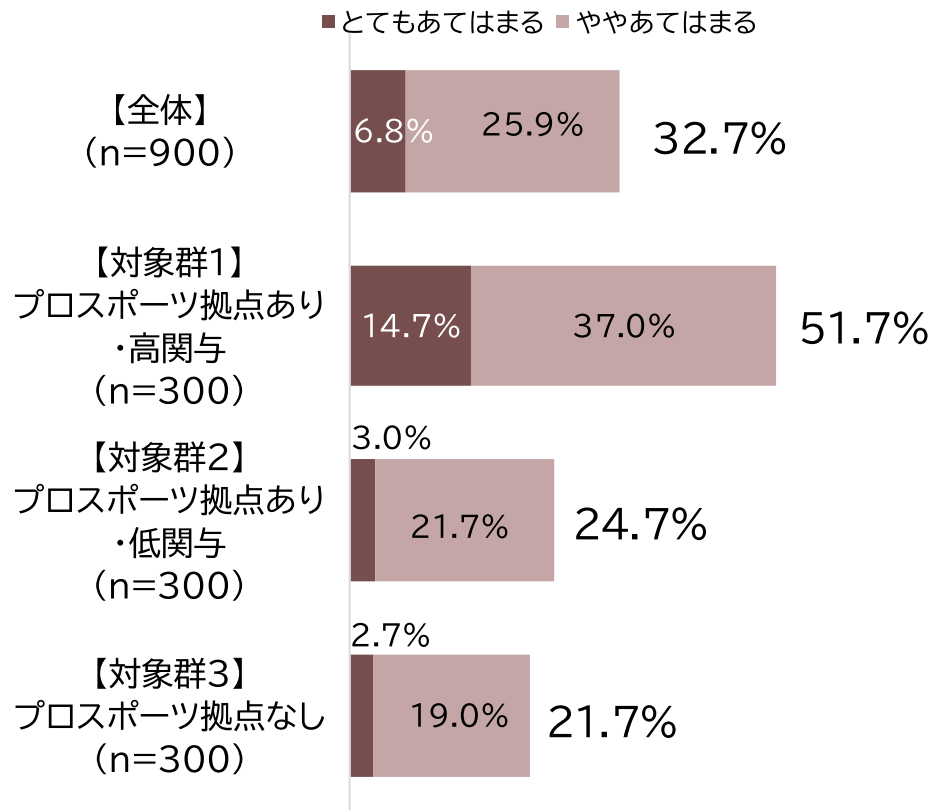
質問文(そのまま)

仮に「(応援しているプロスポーツチーム)」が、財政難から本拠地の県外移転を検討しているとします。そこで、県内での当該チームの活動を継続するために、ファンや千葉県民から寄付金を集めて基金を設立することとなったと仮定します。あなたは年間でいくらの寄付金を支払いますか。

住民の生きがい・喜びの醸成に対する効果

県民WEB
アンケート調査

「生きがいを感じる」の「あてはまる」の割合※

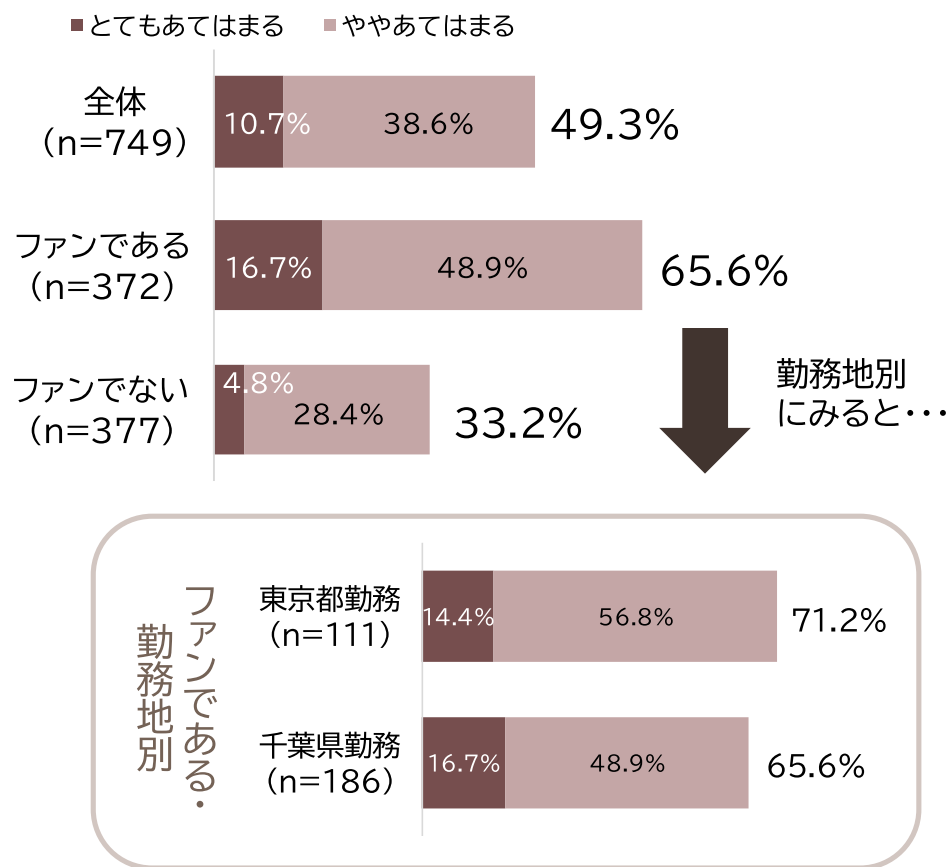


※「日常生活に充実感がある」でも同様の傾向がみられた。

- プロスポーツチームの存在とそれへの関心が、住民の生きがいや日々の充実感につながっている可能性がみられる。
- 現在の生活で「生きがいを感じる」かどうかを尋ねたところ、対象群1は51.7%が「あてはまる」と回答しており、対象群2と対象群3の2割と比べて顕著に高い。

住民のシビックプライド形成に対する効果

「現在の居住地に愛着や誇りを感じる」の
「あてはまる」の割合※



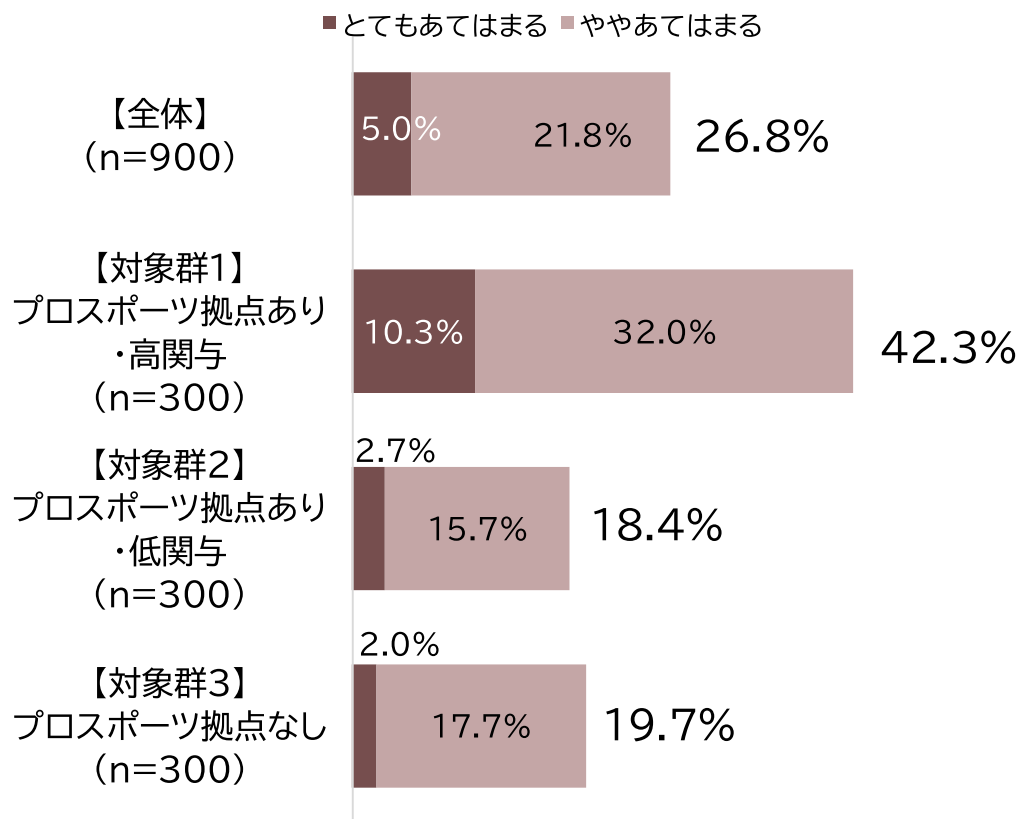
※「現在の居住地にずっと住み続けたい」でも同様の傾向がみられた。

- 県内プロスポーツチームの「ファンである」人の65.6%が地域への愛着・誇りを感じて(シビックプライドを形成して)おり、「ファンでない」人を大きく上回る。
- ファンである人のうち、千葉県在住・東京都勤務者の71.2%が、現在の居住地に愛着や誇りを感じており、県内勤務者よりも高い。
- 県内プロスポーツチームの存在やそれへの関心は、千葉県民としてのアイデンティティの一部を形成しているといえる。

住民のソーシャルキャピタルの形成に対する効果

県民WEB
アンケート調査

「学校・職場以外でひと付き合いがある」の
「あてはまる」の割合※

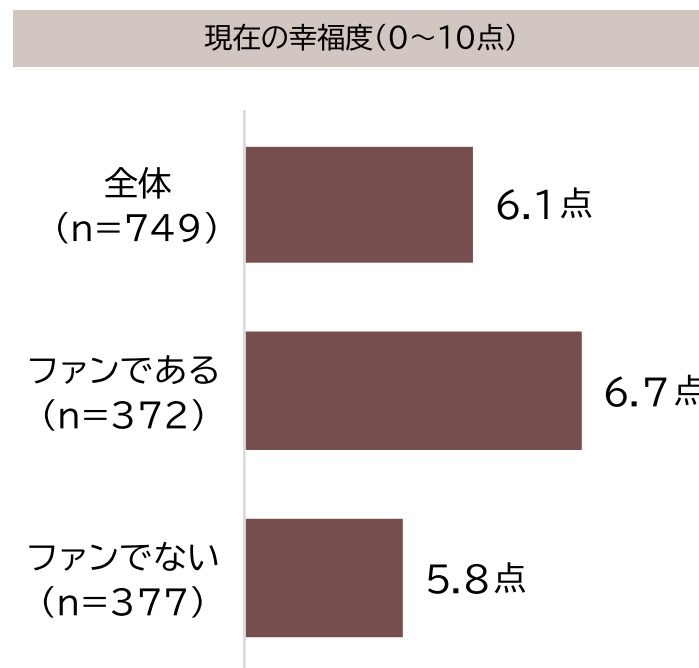
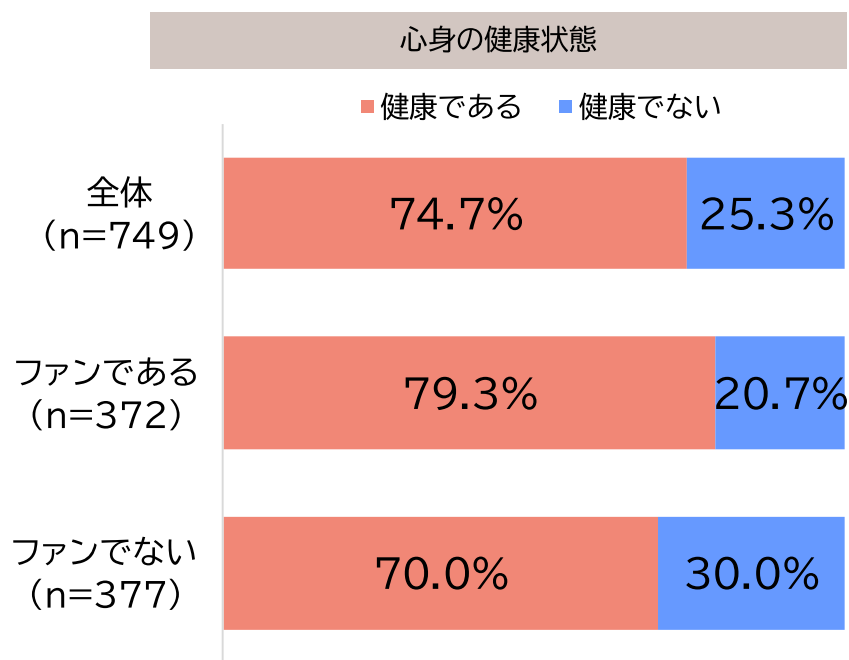


※「現在の居住地との一体感を感じる」でも同様の傾向がみられた。

- 地域のプロスポーツの存在やそれへの関心は、ソーシャルキャピタル(地域の一体感やコミュニティ)の形成に資することが示唆される。
- 「学校・職場以外でひと付き合いがある」かどうかを尋ねたところ、プロスポーツへの関心が高い対象群1は、42.3%が「あてはまる」と回答しており、その割合は対象群2と対象群3を大きく上回る。

住民の心身の健康状態・幸福度に対する効果

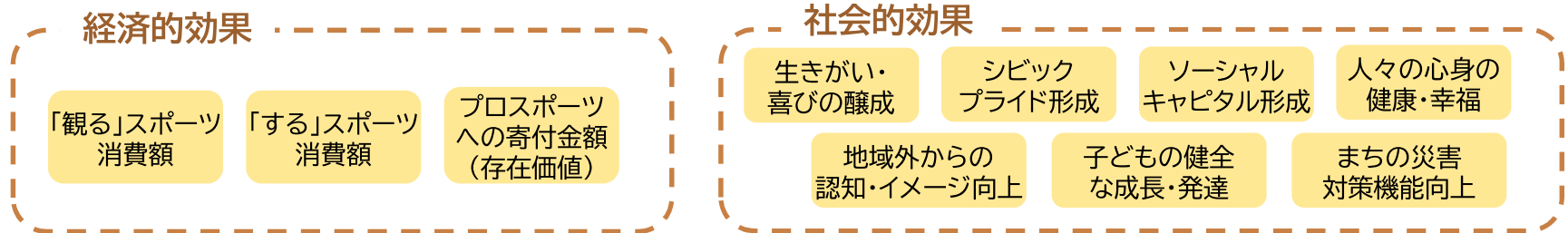
- プロスポーツの「ファンである」人は、「健康である」割合が79.3%、現在の幸福度が6.7点(10点満点)と高く、いずれも「ファンでない」人を上回る。
- これらの結果は、プロスポーツチームの存在とそれへの関心が、人々の心身の健康や幸福度を押し上げる方向で作用していることを示唆している。



総括と自治体の方々にむけた提言

総括

県内自治体へのインタビュー調査、県民WEBアンケート調査より、千葉県内プロスポーツが、地域社会・住民にプラスの経済・社会的効果をもたらしている可能性が示唆された。



自治体の方々にむけた提言

①地域のプロスポーツチームとの連携を積極的に進める

- 自治体が、プロスポーツチームチームの提案や取組をサポート調整する役割を担う。
- 住民や商店街など様々なステークホルダーを巻き込み、取組の輪を広げる。
- スポーツの機能(人をつなぐ、情報を広く発信・拡散させる機能)を活用し、まちづくり政策の効果を増幅させる。

②「観る」「する」「支える」スポーツ機会を設ける

- ハード／ソフトの両面を整備をする。(例:公共スポーツ施設を事業継続性の高いかたちで整備・運営する、自治体が主導してプロスポーツチームの試合に住民を招待する など)

【参考】千葉県のスポーツ実施状況

千葉県は、「する」スポーツが相対的に盛んだが、「観る」「支える」スポーツは成長の余地が大きい。

「する」
スポーツ

- 週1回以上の運動・スポーツ実施率 **63.9%**(全国**5**位)
- アクティブ・スポーツ人口の割合 **20.6%** (全国**9**位)
週2回以上 かつ 1回30分以上 かつ 主観的運動強度が「ややきつい」以上のスポーツ実施者
- スポーツクラブ加入率 **25.1%** (全国**5**位)
- 2024年第100回箱根駅伝の登録選手 千葉県出身者25人 (全国**1**位)※

「観る」
スポーツ

- 直接スポーツ観戦率 **32.4%** (全国**20**位)
- プロスポーツチームの数 **5**チーム(1都3県で**3**位)
NPB、Jリーグ、Bリーグ

【ご参考】1都3件のプロスポーツの数
(単位:チーム)

	合計	NPB (プロ野球)	Jリーグ (サッカー)	Bリーグ (バスケット ボール)
千葉県	5	1	2	2
東京都	7	2	3	2
神奈川県	9	1	6	2
埼玉県	4	1	2	1

「支える」
スポーツ

- スポーツボランティア実施率 **6.9%** (全国**29**位)

(出所)※のみ：(株)陸上競技社,「【箱根駅伝】出身市町村では今回も横浜市が最多 千葉県からは25人が登録 ご当地ランナーをチェック!」,
月陸Online,2023年12月, <https://www.rikujoyogyo.co.jp/archives/125322>,(2024年11月閲覧).

※以外：(公財)笹川スポーツ財団,「スポーツライフに関する調査」(2010~2016年隔年実施).